

揖斐特別支援学校主催 地域支援研修会 2017.7.26

<研修会参加者からの質問への回答>

Q1. “訓練”とありますが、実際どのようなことをすればよいのか悩んでいます。

今は、50音（あいうえおのうた）をいろいろなテンポで読む、または一緒に読む、交互に読む、等を行い、本人が自分の話し方を振り返るようなことをしています。

*他にも多数、具体的、効果的な訓練があれば教えていただきたいとの声がありました。

A1. 「訓練」については様々な意見があり、議論が出し尽くされておりません。そのため、「こうしたらよい」という決定的なものをお進めできないのが現状です。

例えて言うなら何か災害があったとして、「山の方へ逃げる」という方法がある一方で「海の方へ逃げる」という方法もあり、また「その場でじっとしている」という方法もあります。そしてそれらのどの方法も一定の効果を出しており、かつどの方法も効果が得られなかったケースもあるのです。

従って私からはどの方法を・・・と薦めることはできません。ただ、6歳までのお子さんに非常に効果的であるといわれ、近年注目を浴びている治療プログラムがあり、当院でも小学校入学前のお子さんには積極的に実施しているプログラムがあります。それはリッカムプログラムというものですが、現在日本で年2回講習会が開催されています。

また幼児期の訓練としては Demands & Capacity model も効果が高いといわれています。

その他、流暢性形成訓練、認知行動療法的アプローチ、CALMS モデル等が現在国内外で実践されておりま。

また、日本独自のアプローチで注目を浴びているものにメンタル・リハーサル法があります。こちらにも年に1～2回、講習会があります。

興味がありましたら是非参加してみてください。

いずれにせよ、私の場合は子どもと親がどのように困っているのかをまずは見極め、吃音の知識が十分でないのであればまずは吃音の正体を知ってもらい、そしてどのように自分の身を守るかその方法を伝え、そして周囲に知ってもらう意義をお伝えして伝える方法を示し、それらを実践する。そうする事でまずは子どもと親に「安心」を与えることに力を注いでいます。その上でどうしても吃音の症状を軽減する必要があると判断した場合は、それからどの訓練が相応しいかを検討し、実践しています。

小学校入学以前のお子さんであれば上記のアプローチと平行してリッカムプログラムを実施しています。

Q2. 子どもが言葉に詰まっているとき、でも何を言いたいかわかるとき、聞いている側が、「〇〇のこと？」などと助け船のように言葉をかけてもいいのでしょうか。それともじっと言葉が出るのを待つべきなのでしょうか。

A2. 子どもに相談してみましよう。私の場合、「言えなくなったときは助け舟を出した方がいい？それとも最後まで待った方がいいかな？」などと事前に聞いて、本人が選択した方法を実践するようにしています。

ただし普段から自分で言わずに母親に代弁してもらっている習慣が定着しているようなお子さんであれば「なるべく自分で頑張ってみよう。でもどうしても言えないときは助けるからね」と、あくまでも「安心して話せる」状況を作りつつ、しかしチャレンジも出来るよう背中を押すようにしています。

Q3. 学童期を過ぎてしまった人（大学生など）が相談するとよいおすすめの病院（STのいるところ）はありますか？高山では遠いので、あれば知りたいです。

A3. 揖斐厚生病院は系列の病院ですのでご紹介したいと思います。

また愛知県であれば、さくら吃音相談室、つばさ吃音相談室、都筑吃音相談室、専門学校日本聴能言語福祉学院などが対応の実績があります。

ただ他県から高山に通って頂いている方もいます。毎週という事ではなく、月に1回、3ヶ月に1回でもお話を聞くことが出来ますので、前向きにご検討頂けたらと思います。

Q4. 言葉がうまく話せない中学生男子。吃音かどうかはわかりません。発することが不可能ではないとは思いますが、緊張している感じがします。必要なことは短い言葉で言います。母は外国の方で、日本語はなんとか話せます。父は厳しい方です。4月当初はおどおどした様子で、話しかけてもなかなか答えが出ませんでした。少しずつ目を見てくれるようになりました。これから先、どう接したらよいのでしょうか。学校には来られませんが、毎日放課後に来られるようになりました。

A4. 目を見て話せないほど、身を守ることに精一杯の様子が伝わってきます。一度スクールカウンセラーなど、心理の専門家による面接をお勧めします。その上でSTが必要なかどうかの判断も仰いではいかがでしょうか。

Q5. 就学前、発達支援教室において正しい対応ができず、様子を見る形で、退所、就学となり現在小学校3年生。吃音についての悩みを本人が保護者に訴えている状況です。今回教えていただいたことを保護者、小学校の先生（コーディネーター）に話し、本人が過ごしやすい環境が作れるよう、丁寧に話し合いを進めていきたいと思います。うまく話が進まないときは、相談させていただけるとありがたく存じます。保護者との話し合いの中で、本人に言語リハにかかることを勧めることもよいのでしょうか。

A5. 「うまく話が進まないときは、相談させていただけると…」とのこと。どうぞお気軽にご相談ください。敷居は低いです。

「保護者との話し合いの中で、本人に言語リハにかかることを勧めることもよいのか」という事に関してですが、専門家に見てもらうことのメリットは大きいです。前向きにご検討頂きたいと思います。

たくさんのご質問をありがとうございました。

今後とも皆様と協力して、吃音のある方にとって岐阜県が最も安心して暮らせる地となるよう、努力し続けたいと思います。

JA 岐阜厚生連 久美愛厚生病院 リハビリテーション科
言語聴覚士 田宮久史

TEL：0577-32-3199（直通）

FAX：0577-32-8834（直通）

メールアドレス：riha-1@kumiaihp.jp